

第1学年「国語」学習指導案

授業者 森 壽彦

2月14日（金） 1階D室 9:00～9:40 （話し合い11:00～11:45）

1 単元名 ことばでひらく ものがたりのせかい

～じっくり、じっくり、ほっこり えがくのほんやく～

2 単元について

単元目標	・物語の大体を捉え、登場人物や場面を想像し、それらを伝えることばや表現を考える。 ・他者と共同して、よりよいことばや表現を考え合う。
------	---

本学年の子どもたちは、サークル対話を入学した4月から続けている。サークル対話では、子どもたちが一つの輪になって座り、生活の中で見つけたことや感じたこと、興味をもったことなどを語り合い、聴き合うことを大切にしている。そのサークル対話を通して、他者を知り、多くの共感や驚き、問いが生まれる。そして、子どもたちの新たな語彙の獲得や認識へとつながっている。また、サークル対話が生活や学習に生かされる場面もある。何か話したいことや報告したいことがあると自分たちでサークルになり、それぞれが考えを表現し合い、聴き合おうとしている。また、サークル対話で印象に残った話を大切にしたいという思いから、「赤帳」に書き残すことも日常的に続けてきた。その時は、ただ聞いた話をそのまま書き残すのではなく、学級全体でことばを吟味し、文章を推敲する「共同推敲」を行っている。「共同推敲」の活動を通して、ことばについて考える楽しさを実感しているところである。このように、子どもたちは、日常から自分たちの経験や感覚をもとにことばと向き合い、ことばに立ち止まり、考えようとする「感度」を研ぎ澄ましつつ、使っていることばについて見つめ直している。

物語とことばの関係に目を向け始めたのは9月。「おおきなかぶ」を扱い、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像することを行った。その際に、光村図書と絵本や東京書籍の「おおきなかぶ」のことばに違いがあることに気付いた。そして、使われることばによって読み手の想像が変化してしまうことも「共同推敲」の経験をふり振り返りつつ感じていた。12月の「ものがたりを書こう」の学習では、ことばを吟味し物語を作ることを通して、ことばをつむぐ作者の存在や思いを感じていた。このような学びを重ねてきた子どもたちは、翻訳の違いで物語を読んだ際の感じ方が変化したり、英文を直訳した物語に違和感をもったりするだろう。その感じたことをもとに直訳されたことばを書き換える「翻訳活動」につなげていく。そして、ことばに立ち止まり、自身の既存の知識や経験と結びつけながらことばについて考える姿をみていきたい。一人ひとりが感じた物語や登場人物のおもしろさを表現するために「じっくりとくる」ことばを考え合い、ことばと向き合うことをより楽しもうとする姿へとつなげたい。

3 学習指導計画（10時間目／全14時間）

第1次 翻訳が異なる絵本を読む	…4時間
第2次 翻訳アプリで直訳された絵本と翻訳された絵本を比べて読む	…4時間
第3次 翻訳活動を通して、物語をつくる	…本時2/6時間

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

- ・直訳された物語のことばや絵をもとに、登場人物や場面について想像する。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 直訳された絵本のことばや絵をもとに登場人物や場面について想像し、話し合う。	・直訳された絵本のことばや絵をもとに物語の大体を捉えつつ登場人物の行動や場面の様子に着目し、全体を読んで感じたおもしろさをもとに話し合えるようにする。 ・子どもたち一人ひとりの経験（直接経験や読書経験など）をもとに想像したことを話し合えるようにしたい。
2. 話し合ったことをもとに翻訳活動を行う。	・一人ひとりが話し合ったことをもとに、物語の直訳部分の書き換えを行う。 ・書き換えをした際に悩んだことばがある場合は、それぞれ印をつけ、残せるようにしていく。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

登場人物や場面について想像を広げ、書き換える際の設定の決定につながっていたか。